



富士市ブランドブック

富士市ブランドロゴ | 富士山のすそ野を、田子の浦の波に。富士山と海の両方を持つのは富士市だけというオリジナリティを表現しました。富士山が世界遺産となった今、海外の方にもわかるようにローマ字表記も入れています。

————— 富士市産業経済部観光課 富士山・シティプロモーション推進室 —————
〒417-8601 静岡県富士市永田町1丁目100番地 TEL:(0545)55-2958 FAX:(0545)51-1997

富士山と、

富士市で暮らす、わたしたちにとって。

富士山は大きすぎて、近すぎて、

いつもいっしょがあたりまえ。

つねに意識しているわけじゃないけれど、

いつもどこかで感じているもの。

山から湧き出る富士の水も、ふもとで育まれたお茶も。

田子の浦の幸や、富士市発祥のグルメだって。

富士山といっしょだと、どんなものでも素敵になる。

富士山とうまくかけあわせれば、

この街の魅力は、もっと高めることができるはず。

富士山とともにある、富士市の未来を

さあいっしょに考えてみませんか。



とつぜんですが、

富士市と聞いて何を 思い浮かべますか？

富士市のみなさん

富士市と言えば紙。
トイレットペーパーは
日本一の生産量です。

世界遺産の富士山が、
堂々と美しく見える。

かぐや姫伝説があり、
歴史を感じられる街
だと思う。

新幹線があるから、
意外と都心に近いです。

「つけナポリタン」に
「生しらす丼」と、
おいしいものが多い。

保育園に預けやすい。
子育てしやすい。

富士市の水はおいしくて、
水道代も安いので
助かります。

一年を通して、
わりとあったかくて
暮らしやすい。

市外、静岡県のみなさん

自然に恵まれてそうですが、
工場がたくさんあって
住むには抵抗があります。

自然豊かで、
人も穏やかなイメージ。

川の流れがきれい。
あと、富士高校の
百人一首部は強い。

紙の街、
パルプのにおいが強そう。

以前は製紙工場から
独特のにおいがしたけど、
最近はそうでもないような。

想像以上に発展している。
街なかは意外と
過ごしやすいのでは？

首都圏のみなさん

世界遺産に登録された
富士山がある街。
のぼりたい！

新幹線で新富士駅を
通るとき、いつも
「あ、富士山だ！」
って思う。

富士山が売りの市だとは
わかりますが、
富士山以外では知りません。

やきそば？
有名ですよ？

自然に恵まれていて、
のびのびと暮らせそう。

それ、
富士宮市です！

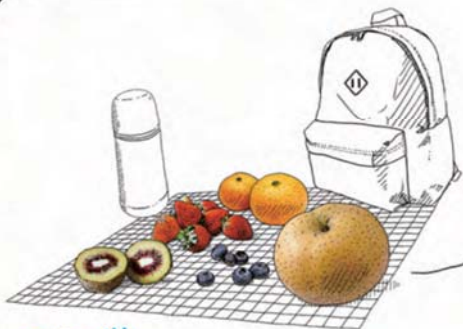
富士市と言えば、と市民に聞いたところ「富士山」だけではなく「製紙工場」「つけナポリタン」

「かぐや姫」などの資産もあげられており、また、「住みやすさ」についても語られていました。

富士市のみなさんと同様、「富士山」のイメージは強いようですが、

その他にまだまだある富士市の資産がいまひとつ伝わっていないようです。

富士市ってこんなところ



フルーツ

イチゴ、ブルーベリー、梨、キウイフルーツ、みかん、などなど。豊かな大地で太陽の恵みを受けて実る果実が、富士市にはたくさんあります。

富士のお茶

優雅な香りと、濃厚な滋味が特徴の富士のお茶。多くの生産者が農林水産大臣賞を受賞しています。

富士市の水

富士山の恵みをたっぷり受けているため、天然のミネラルをバランス良く含んでいます。しかも富士市は、水道料金が日本一安いのです。
※給水人口10~30万人の水道事業体において

新富士駅

東京へ68分、名古屋へは97分と、新幹線ですぐに都市に出られます。山頂からすそ野まで富士山を一望できるホームからの眺望も自慢です。

製紙工場

日本のトイレットペーパーのおよそ3分の1を生産しています。ライトアップされた工場の夜景を見に、全国から人が集まります。



かぐや姫

誰もが知っている昔話は、富士市が舞台という説もあります。富士市では、かぐや姫は月ではなく、富士山に帰ったと語り継がれています。

岳南電車

「がくちゃん」の愛称で親しまれる富士市のローカル電車。夜の駅舎や、車窓から見える工場の夜景は日本夜景遺産に選ばれています。

田子の浦

漁港では、独自の漁法「一般曳き」で獲ったぶりぶりの生しらすが水揚げされます。漁港近くの「富士山しらす街道」では、いろんなしらす丼を食べ比べてきます。



2014年、 「富士山と、」運動を はじめました。

富士市の魅力を富士山とかけあわせて、
日本中に広めていくプロジェクトです。

まずは市民のみなさん一人ひとりから
「あなたが思う、富士市の魅力」を募り、
富士市が持ついいところを、
再発見してもらいました。



デニムづくり 望月さんのとある日



富士市で生まれ育った望月さん。デニムデザイナーとして東京や海外を転々としたあと、生まれ育った自然豊かな地元でこそ自分らしいものをつくれると考え、富士山のふもとのアトリエで制作しています。

富士山と、毎日。

みなさんからいただいた、たくさんの「富士山と、」。
そこから見てきたのは、
多種多様な富士山との暮らし。
自然をゆったり満喫できる喜びや
市のいろいろな特産品を食べる楽しみ、
富士市の人々の人柄がつくるあったかさなど、
この街ならではの毎日でした。

そんな富士市の暮らしをより深く知るために
今回、4つの家族を追いました。



富士山から
インスパイアを
うけること、
よくあります。

アトリエにてデニムの
パッチを刺繍。

山麓の花や木の木目など
も、デザインの参考にして
いるそう。



家族全員で、
手作りやきそばの昼食。

東京の食事は、おいしい
けれど高いものばかり。
それに比べ、富士市は新鮮
でおいしいものを安く食べ
られる、と望月さん。



うちの子たち、
舌が肥えてて味に
結構うるさいんですよ。



東京のメンズと
富士市の女性の
出合いの場を
つくるのが？

お隣の赤富士珈琲さん
でひと休み。

珈琲を飲んでくつろぎ
ながら、富士市の活性化
について語る望月さんと
マスター。



農家民宿 豊田さんのとある日



富士市の里山で育ち、結婚と同時にご主人の地元・浜松市に住むも、両親が営む農業を継ぐことを決めて、富士市に戻る。現在は、農業体験ができる宿泊施設・農家民宿「茶の生」を運営しています。



茶畑の手入れ。

農業に興味ある人が気軽に農業に参加できるように、農家民宿というスタイルをはじめたそうです。

テラスで休憩。



浜松に住んでいた時、富士山が小っちゃくしか見えなかったんです。夫に「あんなの富士山じゃないって、いつもごぼしていました。」



宿泊客とうどんづくり。

富士市の水で打ったうどんは格別。お客さんから「自分で打ったうどんがこんなにおいしいなんて」と、よく言われるそう。



ブルーベリー狩りもできます。

Juicy



宿泊客と農作業。

自分が普段していることをそのまま体験してもらうのが一番喜んでもらえる、と語る豊田さん。



採れたておいしい



畑で採れたばかりの野菜でつくる、オリジナル料理でおもてなし。



ニンジンフライと大根ステーキ。お客さんに人気の野菜メニューです。



のんびり子育て 片桐さんのとある日



東京、青山の美容院で夫婦ともに働いていましたが、子育てと仕事の両立を考え、奥さんの実家がある富士市に移住。美容院COCOをオープンし、富士市からオシャレを発信しています。



お客さんを接客。

富士市のお客さんはあたたかく、フランクにやりとりができる、と奥さん。



お店に遊びに来た、息子さん。

今日は早めに店じまい。これからどこに出かけようかと計画を練る片桐一家。



お気に入りの北欧雑貨屋さんへ。



岳南電車に揺られてお出かけ。

今日が「電車デビュー」はしゃいでます。



名物つけナポリタンでランチ。

何食か食べても、新発見!



富士市は、共働いても子育てがしやすい街です。

「東京とちがって自然の多い富士市は、子どもといっしょにのんびり暮らせる」と片桐さん。市の子育て支援センターに、週に一度は家族で行くそうです。



海外から移住 マイクさんのとある日

オーストラリア出身のマイクさんは、奥さんの故郷である富士市に移住。現在は市内の民家を、海外の登山家が泊まれるゲストハウスにリノベーション中だそう。



愛犬のお散歩。

海岸近くの丘陵地で、昔は多くの著名人が別荘を構えていた鈴川。毎朝、富士山と海の両方が見える素晴らしいロケーションを堪能しているそうです。

ゲストハウスの内装仕上げ。



ここに泊まる仲間と、海拔のメートルから富士山頂を目指したいです。



富士市に来てはじめて、しらす井と出会いました。



田子の浦漁港で、しらす井を楽しむ。



岩本山公園を訪れ、梅の成長を確認。

市主催の「観梅ウェディング」で結婚式を挙げたお二人。結婚の誓いとともに植えた梅の成長を、ときどき観に来ているそうです。

芸術村で、日本の建築を鑑賞。

日本という経済大国のイメージしかなかったけれど、富士市に来て自然の豊かさに驚いた、と語るマイクさん。



富士山との暮らし。

富士山と育ててきた、自然や産業。

富士市の魅力だってきっと、

他にはない価値があるはず。

「行きたい」「住みたい」「住み続けたい」。

全国からそう憧れられる富士市をつくっていくために

考えること、できることは、まだまだあります。

あなたの力を、ぜひ貸してください。

